

GCOE 平成 19 年度実績報告

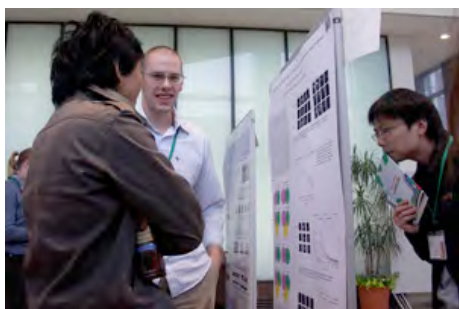
平成 19 年 7 月 20 日にグローバル COE に採択され、本プロジェクト『フロンティア生命科学 グローバルプログラム—生物の環境応答と生存の戦略—』(代表 島本 功 教授)が採用された。本プロジェクトは世界を先導する先端的な生命科学研究を推進する中で、国際社会で活躍できる研究者を養成する、国際的に卓越した拠点を形成することを目的としている。採択後直ちに、プロジェクトを遂行する組織が生まれ、順次申請時の計画に従ってプロジェクトの立ち上げが行われた。本プロジェクトの主たる柱は研究支援プロジェクトと教育支援プロジェクトに分けられる。そして、それらを確認たる国際連携の基で遂行する事に特徴が有る。

[本年度に行った主な事業]

I, 研究支援プロジェクト

1) 国際シンポジウム

第 1 回；2007 年 10 月 18,19 日に「国際植物科学シンポジウム」と題して、モデル植物のイネとシロイヌナズナを中心に、耐病性や形態形成に関する最新のトピックスに関して学内のミレニアムホールで開催した。参加者はのべ 350 人である。スピーカーには本プロジェクトの国際連携先である中国科学院遺伝学研究所やカリフォルニア大学デービス校の研究者も含まれ、国際学生ワークショップに参加した学生のポスター発表も行われた。



第 2 回；2008 年 1 月 15,16 日に動物の生命科学分野の中でも特に発生、分化、再生がテーマとして「Developmental Biology 発生 分化 再生」の題のもと第 2 回シンポジウムが奈良新公会堂で開催された。参加者はのべ 230 名であった。



2008 年 3 月 14 日に GCOE Microbiology Workshop をバイオサイエンス研究科内で開催した。



2) セミナーとコロキウム

プロジェクトが始まってから合計 65 件のセミナーとコロキウムが随時開催された。その中には UC Davis から来日した 8 名の研究者による発表が含まれる。



3) 特別研究グループの設立

相田光宏特任准教授が主宰する形態統御機構研究グループ、木下哲准教授が主宰する植物生殖遺伝学研究グループ、荻野肇准教授が主宰する発生ゲノミクス研究グループが順次設立され、それぞれ 1 名の助教と技術補佐員と共に研究を開始した。

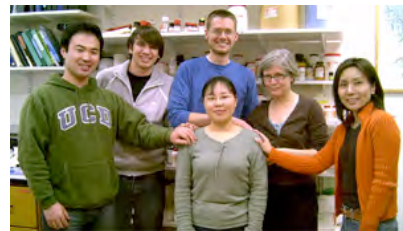


4) 海外若手研究者の受け入れ

6 名の若手研究者を海外から国際リサーチフェローとして順次受け入れ、それぞれが所属する研究室で研究を開始した。なお、そのうちの 1 名は学術振興会研究員に変わり、1 名は母国に帰国した。

5) 若手研究者の海外派遣

若手研究者 2 名、学生 3 名が本年度 それぞれ約 1 ヶ月の海外研修に出かけた。



6) 若手研究者助成

申請のあった若手研究者の研究プロジェクトを審査し、教授 2 名、准教授 6 名、助教 34 名に対して平均約 200 万円の研究助成を行った。

II, 教育支援プロジェクト

1) 学生・若手研究者の経済的支援

本年度に博士後期課程の学生 85 名を COE-RA として雇用した。また特別に優秀な学生 20 名を COE-SRA として採用するべく審査を行った。また、バイオサイエンス研究科で学位を取ってす

ぐの学生の中から審査で4名をCOE-PDとして採用した。

2) 国際学生ワークショップの開催

2007年10月15日から17日までウェルサンピア京都(京田辺市)にて開催した。UC Davisより13名、中国科学院遺伝学研究所より12名、本学バイオサイエンス研究科より13名、合計38



名の大学院生が合宿形式の合同セミナーを行い、それぞれの研究成果を英語で発表した。この様子は新聞でも報じられた。なお、参加した学生は引き続き行われた第1回国際シンポジウムにも参加し、ポスター発表を行った。

3) サマーキャンプの開催

2007年9月10日から12日まで淡路夢舞台国際会議場と隣接する宿泊施設を会場に、博士後期課程学生73名と教員55名が研究発表と討議を中心とした合宿研修を行った。今回から発表に使用する言語を英語とした。なお、UC Davisから教員1名が参加し、講演と講評を行った。



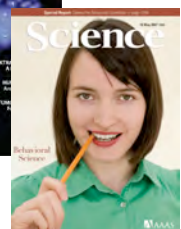
4) 国際ゼミナールの開催

UC Davisから4名の教員を講師として招聘し、それぞれが少人数を対象に2日間の集中講義を行った。



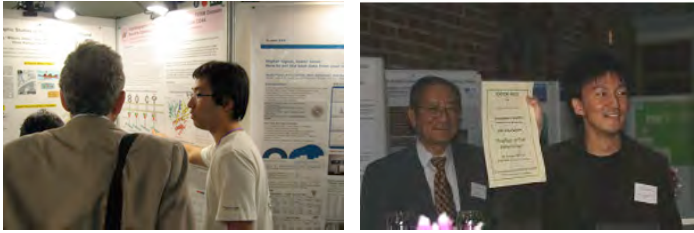
[本年度の成果]

本年度にバイオサイエンス研究科全体で207報の論文が発表された。そのうち186報が英語で発表された論文であり、査読のある雑誌に発表された論文は197報である。これらの中には、NatureやScienceなどの雑誌も含まれ、またインパクトファクターが10以上の雑誌に掲載された論文が10報含まれる。また、これらのいくつかの成果は、新聞等のメディアで取り上げられた。なお、これらの論文の中に博士後期課程に在学中の学生が第一著者であ



る論文が 34 報含まれる。

本年度に学会等で発表された成果は、バイオサイエンス研究科全体で海外学会等 110 報、国内学会等が 399 報である。これらのうち、123 報は博士後期課程の学生が行った発表であり、そのうちの 27 報が海外学会等での発表である。



[国際連携事業]

本グローバル COE プログラムは UC Davis と中国科学院遺伝学研究所との強固な連携の基に遂行している。本年度は、国際シンポジウムに講演者として参加しており、また、国際学生ワークショップではどちらからも 10 名以上の学生が参加してバイオサイエンス研究科の学生と生活を共にしつつ研究の交流を図った。さらに、多くの研究者をセミナーや国際ゼミナールの講師として招聘し、研究科で関連の深い研究者と個別に深い討論を行う事で、研究上の相互理解を深めた。

